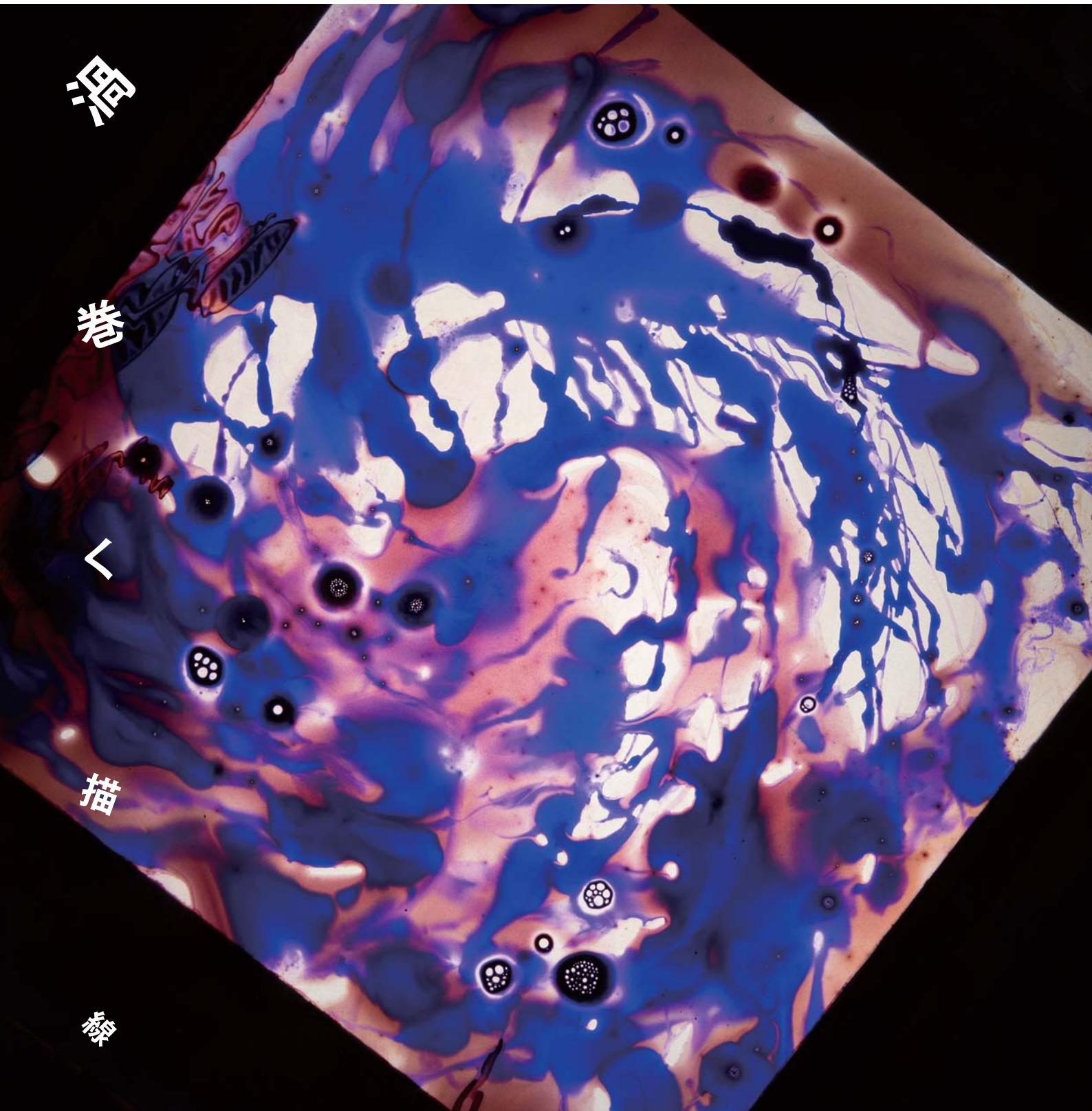


おきみゆ一通信

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum News Letter

vol.15 春号



石田尚志《渦巻く光》2015年

あなたの沖縄に出会う



沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

《Billowing Light》(2015)

©Takashi Ishida / Courtesy of Taka Ishii Gallery

博物館企画展

激動の明治・大正の沖縄 —第11代齋藤用之助の足跡から—

2020 5/2—6/21

博物館特別展示室2

一般 300(240)円、高校・大学生 100(80)円、小・中学生 無料

※()は20名以上の団体料金

※障がい者手帳を療育手帳をお持ちの方と介助者の方1名は無料



齋藤用之助さんは明治時代から大正時代にかけて、沖縄の近代化に貢献されたということですが、人となりや具体的にどのような貢献をされた方だったのか教えてもらえますか。

第11代齋藤用之助は、警察官として佐賀県から来沖し、明治29年に首里兼中頭郡長に就任し、明治31年には那覇区長兼島尻郡長に就任しました。大正4年に退職するまでの在任期間は実に16年10ヶ月で他に例のない長期の在任期間でした。

明治から大正にかけて沖縄が旧慣制度から近代諸制度に転換する時代に教育や産業振興、港湾や道路建設などに関わった人物です。ヤギ汁が大好きであったため地元民からは「ヒーボー郡長」と称されていたことは、彼が慕っていたことを表しています。

なかでも噴火と地震に悩む硫黄島の

住民を久米島へと移住させた功績は大きく、移住先の久米島に畑や住居、風呂屋を用意し、お墓や御嶽の移動にも成功しました。久米島の鳥島地区の住民からは今でも「神様」と呼ばれるほどです。

大正4年に島尻郡長を退職する際には、大送別会が開かれました。当時の新聞には「拍手は一時鳴り止まずなお余興として場外に角力、競馬の催しあり東風平の各通路見物人を以て殆ど通行も出来ざるほどの混雑」だったという記録も残っています。

今でも、沖縄の街並みにその功績が残っている場所や物などがありますか。

糸満市大度浜海岸の用之助港をはじめ与那原街道、那覇市奥武山公園の改租記念碑、米須海岸の階段、糸満市の高嶺製糖工場跡、久米島の鳥島神社などがあります。

本展覧会のみどころや外間学芸員のイチオシポイントを教えてください

激動の時代だった明治・大正期の沖縄の歴史について第11代齋藤資料を軸に紹介します。

展示資料の中には1883年 識名園遊会で使用したとされる盃があります。尚家と日本政府の文様が入った盃は、拡大する日本政府に組み込まれる琉球王国を象徴しているように見えます。(学芸員 外間一先)



博物館企画展

新収蔵品展 —令和元年度収蔵資料—

2020 5/19—6/21

博物館企画展示室、特別展示室1

一般 500(400)円、高校・大学生 300(240)円、小・中学生 無料

※()は前売ならびに20名以上の団体料金

※障がい者手帳を療育手帳をお持ちの方と介助者の方1名は無料

前年度に寄贈・収集・購入・移管・修理された資料を一堂に集め、ご紹介する毎年恒例の展覧会です。

今回展示される新収蔵品の中で、澤浦学芸員のおすすめを教えてもらえますか。

昨年度、沖縄出身で1988年ソウル五輪に出場した泉川寛晃氏から選手用ブレザー及びパンツ、ネクタイ等のユニフォーム一式が当館に寄贈され、本展覧会で展示されます。

真っ赤なブレザーには胸に日の丸と五輪マークが入った日本代表選手を意味するエンブレムが見られます。赤は開会式や結団式などのフォーマルな場面で着用するブレザーであり、食事会等のリラックスした雰囲気の時には、紺のブレザーを着用していました。よく見るとネクタイやベルトにも日の丸と五輪のマークが入っています。



美術館コレクション展

石田尚志展

2020 2/15—6/28

コレクションギャラリー1
一般 400(320)円、高校・大学生 220(180)円、県外小・中学生 無料 100(80)円
※()は20名以上の団体料金
※70歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方1名は無料
※コレクションギャラリー2「大城精徳の仕事」、コレクションギャラリー3「沖縄美術の流れ」もご覧になれます

いしだ たかし
本展覧会では、当館が収蔵する石田尚志(1972-)の3つの作品《部屋／形態》(1999)、《海の映画》(2007)、《渦巻く光》(2015)に加えて、特別出品の《おもちゃ》(2019)と彫刻作品を紹介します。

近年、現代美術と映像の分野で注目を集める石田尚志。抽象的な線を少しづつ描いてコマ撮りをする行為を繰り返して「動く絵(ムービング・ピクチャー)」を作ります。本展覧会で紹介される映像作品のみどころを教えてください。

石田尚志の映像作品の根底にあるのは「描く」ことへの強い欲望です。《部屋／形態》では、描線が額縁をはみ出し、3次元である部屋の壁や床へと広がります。そして《海の映画》では、沖縄の海を撮影した16mmフィルム映像から線が流れ出します。石田さんは18歳(1990年)から2年余りを沖縄で過ごしており、1991年には水彩画《渦》を描いて那覇で個展を開催しました。そうした流れをくむ「渦巻く描線」は、《部屋／形態》、《海の映画》、《渦巻く光》にも登場しています。

新たな展開として、石田さんは昨年から彫刻作品を制作するようになりました。渦巻く描線はついに立体化を始めました。映像作品《おもちゃ》には、その彫刻作品が登場しています。石田作品の渦巻く描線の展開を楽しんでいただければと思います。

(学芸員 大城さゆり)



石田尚志《彫刻／4:3》2019年

美術館コレクション展

大城精徳の仕事

2020 2/15—6/28

コレクションギャラリー2
一般 400(320)円、高校・大学生 220(180)円、県外小・中学生 無料 100(80)円
※()は20名以上の団体料金
※70歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方1名は無料
※コレクションギャラリー1「石田尚志展」、コレクションギャラリー3「沖縄美術の流れ」もご覧になれます

大城精徳は画家であり、雑誌『琉球の文化』を出版するなど、沖縄美術研究者としても知られています。今回、未発表の絵画を含む22点の作品が展示されるということですが、みどころを教えてください。

う~ん、たくさんあるので、ひとつに絞れないですね(笑)。

大城さんは24歳の時、アメリカ留学から帰郷し、1952年から1957年まで沖縄の画家・名渡山愛順に洋画を学びます。その間の、1956年に描いた《沖縄風景》(寄託作品)と、その翌年の作品《墓と家》(1957年)は、必見かも知れませんね。ちなみに、1956年には東京の公募展(第41回二科展)で《沖縄風景》(15号・出品作品とは別の絵)が初入選し、琉球新報に大きく報じされました。《墓と家》は、その翌年の二科展に出品されたのですが、かやぶき屋根の家と亀甲墓を、どん!と中心に描いています。とても見ごたえのある作品ではあります、県外の方は、これを見て何が描かれている

か、わかったかなあ?
郷土文化に精通する大城さんらしく、沖縄の風景や植物を得意としながらも、沖縄の墓や蝶、アメリカ軍用地に張り巡らされている鉄線を描くなど、戦後の沖縄社会を絵で表現していました。



《ガラサーマーミグワーとガラサー》1965年
《Common vetch and Crow》(1965)

ぜひ、多くの方々に足を運んでいただきたいです! ちなみに私の推しは《ガラサーマーミグワーとガラサー》です。(主任学芸員 豊見山愛)



四季翎毛花卉図巻(部分) 模造復元品

おすすめ作品!

美術館コレクション展

博物館常設展

学芸員が選ぶ

美術館コレクション展

沖縄美術の流れ 山城知佳子《アーサ女》



山城知佳子《アーサ女》2008年 ©Chikako YAMASHIRO

コレクションギャラリー3 一般 400(320)円、高校・大学生 220(180)円、県外小・中学生 無料 100(80)円

※()は20名以上の団体料金 ※県内小・中学生、未就学児は無料

※70歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方1名は無料 ※コレクションギャラリー1「石田尚志展」、コレクションギャラリー2「大城精徳の仕事」もご覧になれます

あの絵巻が、ついに完成しました。7メートルを超える長い一枚の絹に、鮮やかな花々と、生き生きとした鳥たちが描かれています。琉球王国文化遺産集積・再興事業にて模造復元した四季翎毛花卉図巻です。九州国立博物館が所蔵している花鳥図巻(孫億筆)を参考に、およそ4年かけて製作した大作です。オリジナルの花鳥図巻は、かつて琉球国王家の所蔵品で、当時の絵師の手本として大切にされていたという伝来があります。首里城

で王族や絵師たちが眺めていたかもしれません。模造復元品は、高い技術を持つ現代の絵師が、中国の絵画技法による細やかな表現を再現して丹精込めて描き上げたものです。この作品を、美術工芸室にて初公開します。現代の手わざで復元された美しい花鳥の描写をお見逃しなく!

(学芸員 篠原あかね)

山城知佳子の《アーサ女》(2008)は、映像と写真によるインсталレーション作品です。写真には、山城さんが扮する架空の生き物「アーサ女」が登場します。このアーサ女とは、一体どのような生き物なのでしょうか?

映像は、アーサ女の視点で水中を浮き沈みながら、沖縄本島の近海を移動していきます。水面から見つめる先には海岸があり、そこには地域振興を目的に埋め立て計画がある沖縄市泡瀬や、米軍基地移設で埋め立てが予定されている名護市辺野古も登場します。

この作品が作られてから早12年、あれから沖縄の海岸線は随分変化したことでしょう。海から沖縄本島を見つめているアーサ女は、今日もどこかの海岸沿いを漂っているかもしれません。アーサ女は、どのような沖縄の「今」を見つめているのでしょうか。

(学芸員 大城さゆり)

沖縄県立美術館支援会happ×指定管理者(一財)沖縄美ら島財団連携事業

おきみゅー^{プロムナードコンサート}

開館当初から沖縄県立美術館支援会happが抱いていた「音楽でも当館を盛り上げていきたい」という熱い思いが昨年ようやく実現しました。4月から毎月1~2回開催し、おきみゅーの定番催事となりました。



「おきみゅーエントランスコンサート」から
「おきみゅープロムナードコンサート」へ

エントランスでのコンサートは、おかげさまで初年度から計20回の公演を実施することができました。観覧者総数も2,000名を超えて、お客様からはもちろんのこと、出演いただいたアーティストからも喜びの声が数多く寄せられています。「美術館と音楽」、新しい価値を生み出す文化創造活動の一つとして、大きな可能性を感じた一年でした!

演奏内容もクラシック音楽からJAZZ、ポップス、昭和歌謡、島唄ライブ、琉球伝統芸能公演までと幅広いジャンルの音楽コンサートを実施しました。

今年度からは「おきみゅープロムナードコンサート」に名前を変え、さらにパワーアップします!「プロムナード」とはフランス語で「散歩」という意味。おしゃれな響きですよね(笑)。散歩しながら聴くような、だれでも気軽に楽しめるコンサートとして、みなさまに楽しんでもらえるように取り組んでまいります。

尚、今年度のおきみゅープロムナードコンサートは、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、開始時期を延期して、5月からの開催を目標に準備を進めています。日程や出演者が決まり次第、当館HP、Facebook、Twitterなどでお知らせします。お楽しみに~!!!

2019年度
おきみゅーエントランスコンサート開催一覧

4/28	宮城知子ピアノコンサート	[観客数] 100名
5/3	テリー重田サックスライブ	50名
5/12	ユキ&カトリースライブ	150名
6/2	チェンバロとソプラノ声楽コンサート	150名
6/23	フルートコンサート	80名
7/7	ハーメルンこども合唱	100名
7/14	ミヤギフミモトバンドライブ	120名
7/27	大度室内楽団クラシックコンサート	250名
8/6, 8/9	開邦高校音楽コース&ヒューマンアカデミー学生によるジブリメドレー	200名
9/14	テリー重田サックスライブ	40名
9/29	パナリース楽団ライブ	10名
9/29	古琉球の祈りの調べ	60名
10/13	弦楽四重奏コンサート	80名
10/20	ソプラノ声楽・アコーディオンコンサート	80名
11/3	クラシックオペラコンサート	150名
12/8	クリスマスコンサート	100名
12/22	大度室内楽団クラシックコンサート	120名
1/19	那覇シティ・ミューザ少年少女合唱団コンサート	100名
1/26	島唄コンサート	80名
2/9	木管五重奏コンサート	60名

[写真]那覇シティ・ミューザ少年少女合唱団コンサート



シリーズ きょういく ふきゅう Vol.5 おきみゆーの ジオラマであそぼ♪ ジオラマ大喜利

おもしろセリフを
妄想しよう!

博物館の常設展示室にあるジオラマに目線を合わせてじーっと見ていると、スポットライトを浴びたジオラマの面白い表情や動きから、「もしかしてこんなことをつぶやいているんじゃないかな♪」と妄想してしまいます。個人的には、ジオラマの楽しみ方の一つかなあと思ったり(笑)。今号から連載シリーズとしてこのコーナーでは、ジオラマのある場面を切り取り、それを見た人たちがどんな妄想を展開するのかを調べていきたいと思います。

あなたならどんなつぶやきを想像しますか?一緒に想像してみましょう♪

このジオラマが伝えたいこと

こちらは、縄文時代中期末から後期頃の古我知原貝塚の生活の様子の一部。実は、貝を割ってアクセサリーを作っているところです。この時代の遺跡からは、動物の骨や貝殻などを使ったアクセサリーが発見されています。勾玉状石製品や彫刻石製品はお守りとして使われたとも考えられています。



ジオラマの見方は十人十色★読者のみなさんはどんな風に感じましたか??
ジオラマをじっくり見ると妄想力が高まるかもしれませんね。次回もお楽しみに

担当学芸員が選ぶ!

ふれあい体験室のイチオシ! キット

たいけん
体験キット No.



いろいろな玩具

皆さんは沖縄の郷土玩具をご存知しょうか?昔は身近にある自然素材を利用して、自分たちで工夫しておもちゃを作っていました。ふれあい体験室では、アダンやマーニ(クロツグ)で作る草編み玩具や、琉球張り子、凧などいろいろな郷土玩具を展示しています。ぜひ手に取って遊んでみてください。(教育普及担当 比嘉 麻乃)



4・5・6月のふれあい体験室では、カラフルなクラフトテープを使って草編み玩具を作るワークショップを開催しています。遊びに来てね!

毎月楽しいイベント
が盛りだくさん
だみゅ~

4・5・6月のイベント情報



博物館

文化講座

無料

[各回] 時間 14:00~16:00 場所 講堂 定員 200名

4/18± 絵を描くこころの起源を探る

講師 斎藤 亜矢氏 (京都芸術大学准教授)

5/16± 琉球漆芸について(仮題)

講師 糸数 政次氏 (沖縄県立芸術大学教授)

6/20± 「琉球处分」期の福州・琉球館と琉球人 ~日本軍の探偵報告から~

講師 後田多 敦氏 (神奈川大学外国语学部准教授)

博物館 学芸員講座

無料

[各回] 時間 14:00~16:00 場所 博物館講座室 定員 80名

4/11± 鳥居龍蔵生誕150年記念 人類学から見た日本・沖縄の民族起源論

講師 山崎 真治【人類】

5/9± 今、明かされる琉球王国の手わざⅡ ~琉球王国文化遺産集積・再興事業について~

講師 篠原 あかね【美術工芸】

6/13± 記録の中の沖縄PART2

講師 外間 一先【歴史】

博物館常設展 展示解説会

[各回] 時間 14:00~15:00 場所 博物館 常設展示室
※当日有効の常設展観券が必要

4/9± 人類

5/14± 考古

6/11± 美術工芸

講師 山崎 真治

講師 山本 正昭

講師 篠原 あかね

バックヤードツアー

無料

[各回] 時間 14:00~15:00 集合場所 ふれあい体験室前 定員 12名
※当日9:00より総合案内で受付

4/25± 地学

5/30± 美術工芸

6/20± 美術工芸

講師 宇佐美 賢

講師 篠原 あかね

講師 伊禮 拓郎

5月23日(土)は「国際博物館の日」にちなみ、博物館常設展と美術館コレクション展が無料開放日となります。

※企画展は有料となります。

Art Museum 美術館

「石田尚志展」関連催事

5/30± ギャラリートーク

時間 14:00~15:30 場所 美術館講座室、コレクションギャラリー

講師 調整中 ※当日有効の美術館コレクションギャラリーの観覧券が必要

「大城精徳の仕事展」関連催事

6/13± ギャラリートーク

時間 14:00~15:30 場所 美術館講座室、コレクションギャラリー

講師 星 雅彦氏 (美術批評家) 宮城 篤正氏 (元沖縄県立芸術大学学長、画家)

※当日有効の美術館コレクションギャラリーの観覧券が必要

美術館ミュージアムツアーアムツアーワーク

5/23± 時間 10:30~12:00 (10:25までに美術館ホワイエ集合) 定員 12名 (事前申込制)

担当 富原 圭子 (教育普及担当学芸員)

※1ヶ月前から、電話か直接来館(総合案内)にて受付

『OKINAWA』アートワークショップ2020

6/13± 錫細工を楽しもう(仮題)

講師 上原 俊展氏 (金細工まつ)

※詳細は決まり次第、当館HPでお知らせします

「慰靈の日」関連催事

6/23± 「平和ってなに??」 美術館えほん読み聞かせ

時間 14:00~15:00 場所 1階エントランス

ふれあい体験室ワークショップ [4月~6月]

毎週土曜 開催 ふれたい博士のてづくりおもちゃ

時間 1回目 10:00 2回目 10:30 3回目 11:00 4回目 11:30 ※所要時間30分

場所 ふれあい体験室前 参加費 300円

定員 当日先着40名(各回10名) ※当日9:00よりふれあい体験室にてすべての回を受付



[開館時間] 9:00～18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで)

※入館は閉館30分前まで

[休館日] 月曜日 (月曜日が祝日にあたる場合は開館し、翌平日が休館)

メンテナンス休館 (2020年6月29日～7月7日)

※休館日は変更することがあります。

当館ホームページをご覧ください。

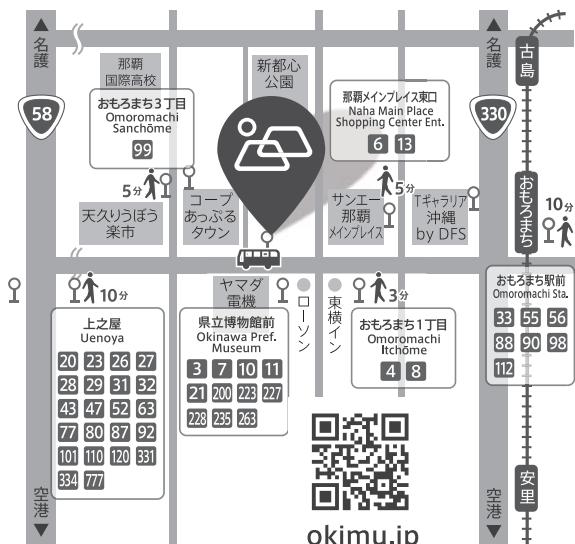
[ホームページ] <https://okimu.jp>

おきみゅーをフォローして
最新情報をSNSでチェック!



駐車場は台数が限られていますので、
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

【沖縄都市モノレール】ゆいレール おもろまち駅下車（徒歩10分）



編集後記

世界中に大きな影響を及ぼしている新型コロナウィルス感染症…。当館でも感染拡大防止のため、2月から予定されていた様々な催事が中止または延期となる状況が続いております。とにかく今は一日も早い収束を願うばかりです。

さて、この4月からおきみゅー(当館)に新しいスローガン「あなたの沖縄に出会う」が誕生しました。当館にはこの島が大切にしてきたモノが詰まっています。展示を通して、お客様一人ひとりにとっての「沖縄」をもっと身近に感じてほしい(私たちおきみゅーはその感動をお客様に届けたい)という想いをスローガンに込めました。当館あなたの沖縄を探してみませんか。(美ら男)

沖縄県立博物館・美術館 季刊誌

おきみゅー通信 vol.15 春号

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

TEL 098-941-8200 (代表)

[発行日] 2020年4月1日

[編集・発行] 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者
一般財団法人 沖縄美ら島財団